

社会科学学習指導案

指導者 伊達 正貴

日時 平成30年11月17日(土) 第2校時(11:05~11:55)

年組 中学校第3学年2組 計40名(男子18名,女子22名)

場所 中学校第3学年2組教室

単元 国の政治の仕組み

単元について

日本国憲法施行から71年。憲法の条文は一字一句変わっていない。政治の仕組みは大きくは変わらないものの選挙制度改革や行政改革,司法制度改革など,モデルチェンジを繰り返してきている。この10年あまりでは,小選挙区制による幾度かの衆議院総選挙で3分の2の議席を獲得する政党が現れた。また,連続した短期政権ののちに5年を超える長期政権が誕生するなどしている。こうした状況に加え,行政改革などにより,内閣総理大臣が重要施策を実現しやすい環境ができやすくなったともいえる半面,権力の暴走に対する歯止めがかけにくくなっているという指摘もある*1。おおむね3年後に選挙権を得る中学校3年生にとって,憲法が掲げる理念だけでなく,現実の国家権力や政治の仕組みを批判的に理解することの必要性は,これまで以上に高まっている。この点で,国の政治の仕組みを学ぶ本単元の意義は大きい。

本学級の生徒は,社会科の学習に対する関心はおおむね高い。ただ,「効率と公正」や「公共の福祉」といった概念的な内容をとらえることを苦手とする生徒が多い。そのため,具体的な事例をもとに概念をとらえるような学習の展開が必要である。理論より感情を優先して考える傾向もあり,1つの事例に対するとらえ方も多様なものになる。合理的に検討していくための工夫が必要である。

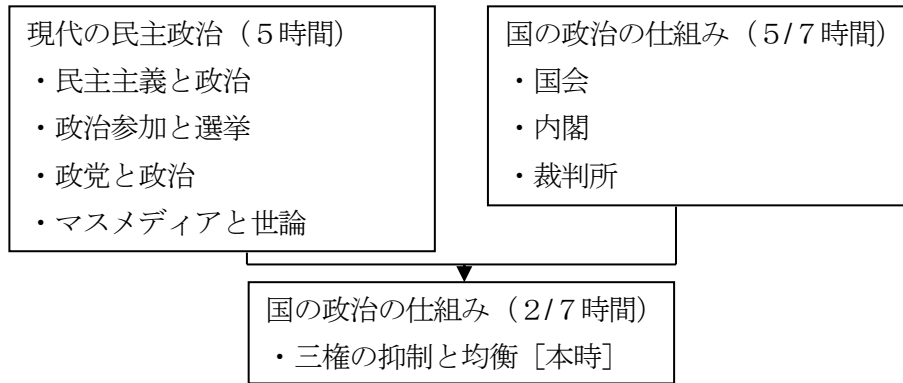
ここまでの公民的分野の学習では,「立憲主義とは何か」ということを軸に,憲法や人権の学習,民主政治のあり方を学習してきた。国の政治の仕組みの指導にあたっては,「立憲主義」,「民主主義」,「人権」といった以前に獲得した概念を踏まえながら,現在の政治制度理解に留まらず,現実の文脈で抱える課題としっかり向き合わせられるよう,授業ごとのまとめに工夫をしていきたい。小選挙区制になったことでそれまでの選挙結果とどのように変わったのか,衆議院と参議院が似通った構成になりやすいことの意味,国会と内閣の関係,裁判所の役割と国会や内閣との関係を,ていねいにまとめるようにする。

本時の授業では,ここまでの民主政治や国の政治の仕組みのまとめとして,教科書的なおおむね正三角形に描かれる三権分立図を,それぞれの権力の距離感や力関係をふまえて自らが考えるリアル三権分立図を作成させ,なぜそのようになるのかを考えさせたい。これらの学習活動を通して,現実から理念を見るという視点で国の政治の仕組みをとらえさせたい。現実と理念を対比させるとらえる力は,多様な価値観を有するグローバル社会を生きる力として必要な力だと考えられる。この後の展開として,立憲主義として国民が政治にどのように関わるのが望ましいのかを考えさせていきたい。

指導目標

1. 教科書的な事実認識にとどまらず,主体的な判断により政治の仕組みをとらえさせる。
2. 資料からの読み取りをていねいに行い,社会的事象と正面から向き合わせるようにする。
3. 思考や表現の場面で,思考ツールを用いて思考の過程を可視化できるようにする。

指導計画



本時の目標

日本の三権分立を、現実社会のデータを用いながら、権力間のつながりや距離感を加味して図として表現し、説明することができる。

学びを豊かにするための手立て

本時までの学習の中で、権力間のつながりや距離感について、その感覚をつかませる。その際、抽象的なことがらを現実としてとらえさせるために、新聞記事やニュース画像などを利用する。本時の学習では、日本国憲法施行以来の権力間の関わりを資料として用い、既習事項と関連づけて思考させる。グループ活動での思考過程は、ホワイトボード上のマグネットを動かして三権分立図を構成できるようにする。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点 (◆評価)
<input type="checkbox"/> これまでの学習を振り返り、国家権力を分けて担当する意味を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本の現状をふまえ、教科書にはないリアル三権分立図をつくろう</div>	<input type="checkbox"/> 三権分立や国民主権の理念をおさえる。
<input type="checkbox"/> 国家権力と国民のつながりを表す図のモデルを示す。 [グループ活動] <input type="checkbox"/> 資料や既習事項から日本国憲法施行以降の三権のつながりを読み取り、三権の距離感を加味して三権分立図を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・内閣不信任は数多く出されているけど、成立は少ない ・内閣総理大臣は国会が指名している ・弾劾裁判はあまり行われていない ・衆議院の解散は多い 	<input type="checkbox"/> 次のような例を示す <pre> graph TD A[国会] --> B[内閣] A --> C[裁判所] B <-.-> C </pre> <input type="checkbox"/> 次の資料を用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・衆議院による内閣不信任決議 ・弾劾裁判の回数と結果 ・内閣による衆議院の解散の回数 ・最高裁判所裁判官の任命者 ・法律に対する違憲判決の件数 ・最高裁判所裁判官の国民審査

- 日本では法案の多くは内閣提出となっている
- 現在の最高裁判所裁判官はすべて安倍首相による任命
- 最高裁判所による法律の違憲審査はあまりない
- 国民審査によってやめさせられた裁判官はいない

- 国会と内閣は関係が強い
- 内閣の方が国会に対する働きかけが多く見える
- 国会と内閣は近い位置に置く
- 裁判所と国会は、関わりの回数が少ない
- 国会と裁判所は離れた位置に置く
- 裁判所は国会とも内閣とも遠い位置かもしれない
- 国民とのつながりでは選挙が一番大きい

[全体]

グループごとに、説明する。

○三権分立図の辺ごとに作業を進められるように資料を提示する

○権力間の距離や、つながりの強さを意識させて、思考させる。

○ホワイトボード、「国会」「内閣」「裁判所」と「国民」のマグネット、4色のマーカーを用意して、最終的な図を描きやすくする。

○机間指導により、各グループの進行状況を把握し、つまずきが見られるグループには、関係性の強さなど考えるポイントなどを示す。

◆作成した三権分立と国民の関わりの図の意図を説明できる。【思考・判断・表現】
(ワークシート)

A	権力間の距離感とつながりの強さを説明
B	権力間の距離感またはつながりの強さを説明
C	Bの基準を満たしていない